

北海道推しごとオーディション・ ゼロカーボン北海道の 推進支援について

2024年2月13日

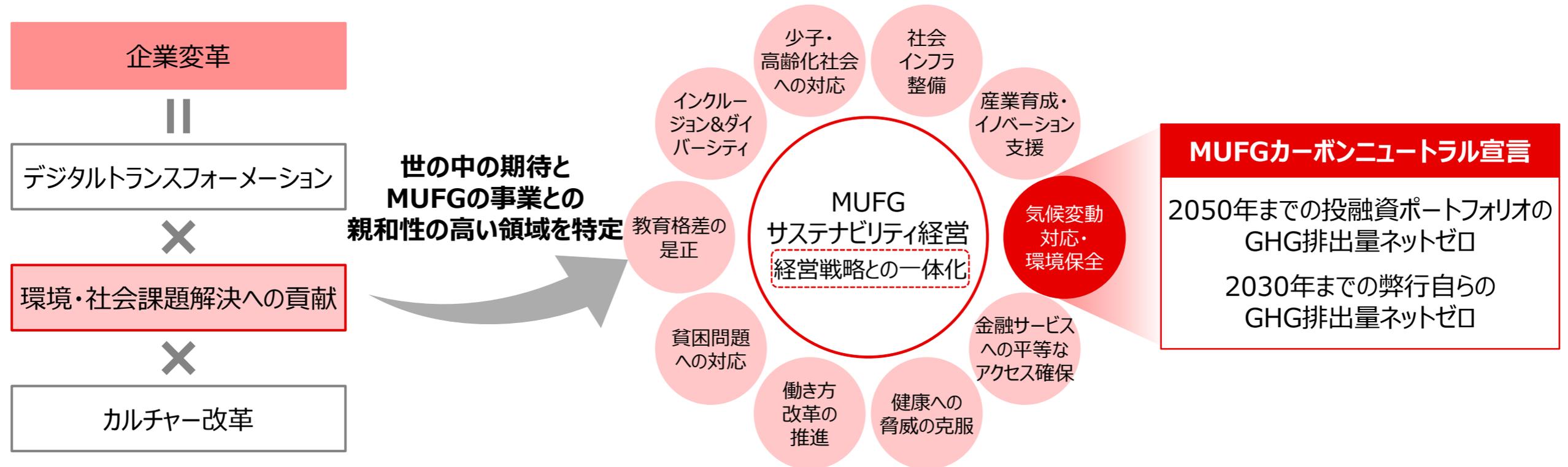
MUFGのサステナビリティ経営

- MUFGは、パーパスとして「世界が進むチカラになる。」を掲げ、持続可能な環境・社会がMUFGの持続的成長の大前提であるとの考えのもと、環境・社会課題の解決とMUFGの経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組む

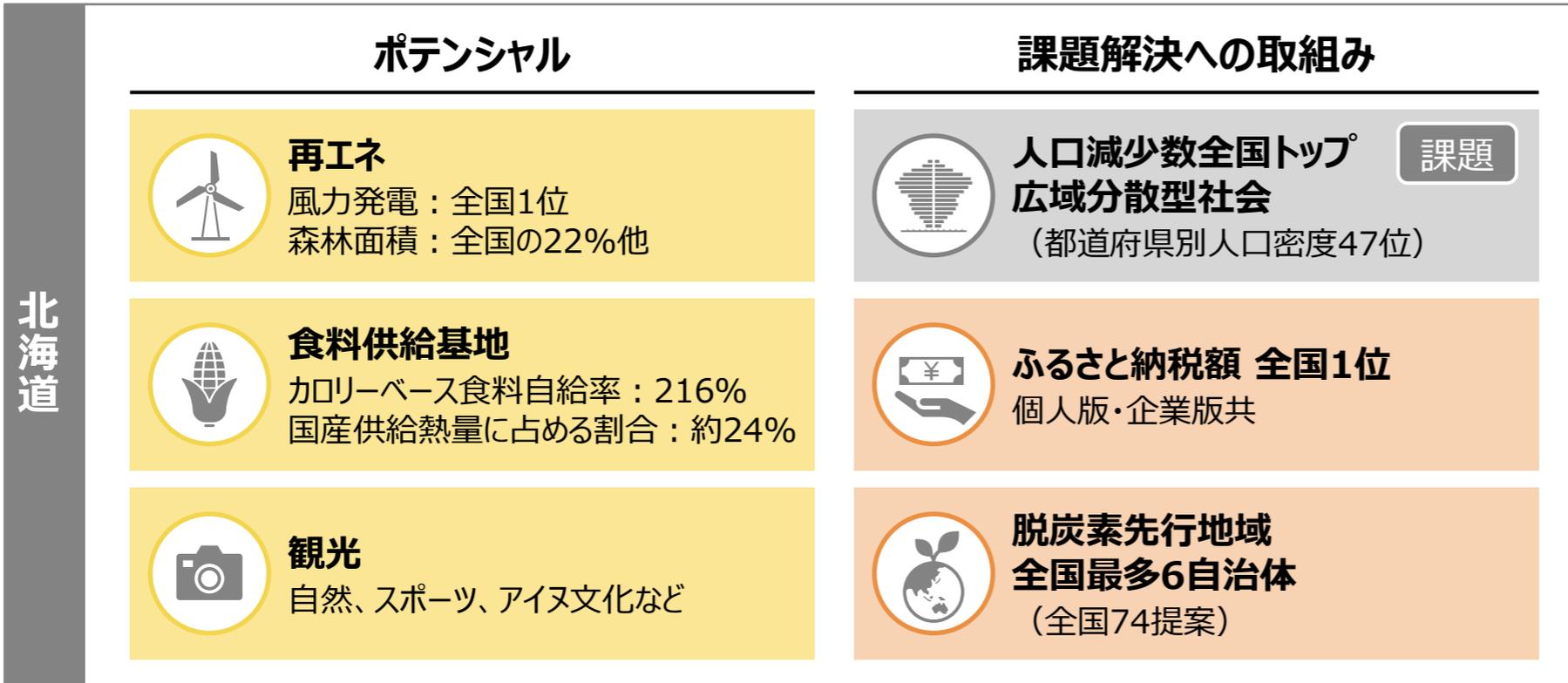
MUFGのパーパス 「世界が進むチカラになる。」

中期経営計画

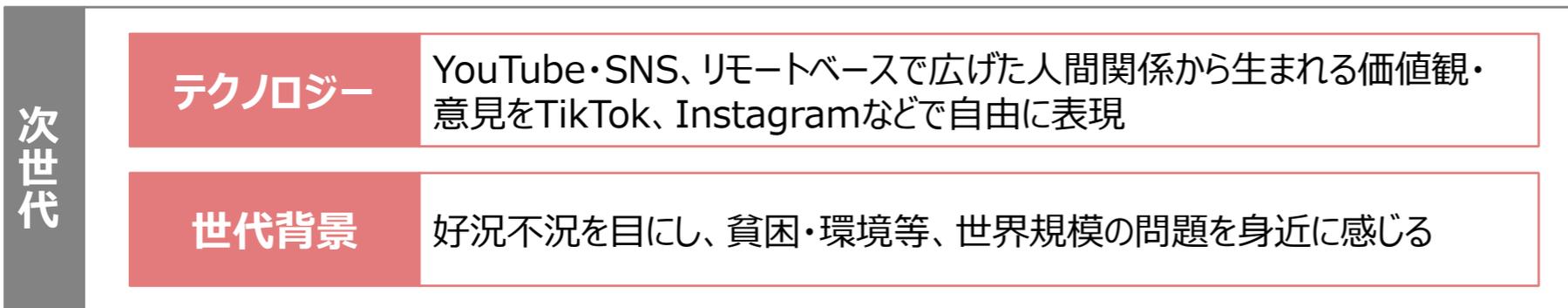
優先的に取り組む10の環境・社会課題



北海道推しごとオーディション 企画意図



自治体が主体的に課題解決に取り組むため、ポテンシャルを活かした更なる環境社会課題解決の加速が期待される



従来と異なる意思表示手段を使い、将来を担うZ世代の声を聴くには、従来と異なる手法が必要

(出所) 再生可能エネルギー情報提供システム[REPOS(リーポス)]、森林(林野庁、北海道データブック2023)
 帝国書院(令和2年住民基本台帳人口・世帯数表、令和2年全国都道府県市区町村別面積調)日本の統計人口密度(2020年)
 北海道経済連合会 2050北海道ビジョン、内閣府企業版ふるさと納税ポータルサイト、総務省ふるさと納税ポータルサイト
 環境省、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数、北海道農政部

北海道推しごとオーディション 概要

企画・運営、公募（11月） 全自治体へ案内

予選審査会（1月）

6事業

主催	三菱UFJ銀行
事務局	三菱UFJリサーチ&コンサルティング
企画サポート	インクルージョン・ジャパン
SNS動画配信 企画運営	僕と私と
ふるさと納税 アドバイザー	トラストバンク

Z世代マーケター
今瀧氏起用



審査員としてZ世代／2名、有識者／3名を起用



石山 アンジュ
一般社団法人シェアリング
エコミー協会 代表理事
一般社団法人Public Meets
Innovation 代表理事



伊藤 健
慶応義塾大学大学院 メディアアーティスト・筑波大学デジタル
政策・メディア研究科 ネイチャー開発研究センターセンター長、
特任講師



落合 陽二
准教授・JST CRESTxDiversity
プロジェクト研究代表他



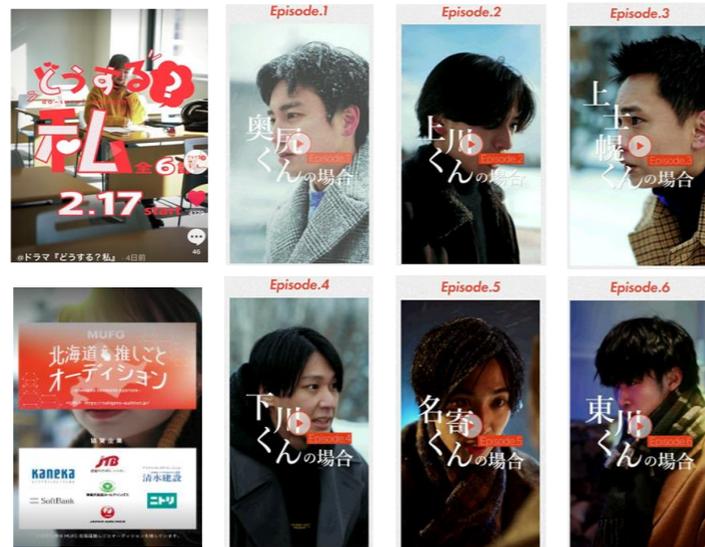
露木 志奈
環境活動家



前本 美結
サステナブルライフクリエイター・モデル
東京都環境局ユースアンバサダー

SNS動画配信（2月）

恋愛要素のあるショート
ドラマをTikTokで配信
（一週間で累計
再生2.2百万回超、
総いいね15千超）



寄附発表／トークセッション（3月） /寄附実施

成果発表会兼トークセッション開催



北海道推しごとオーディション 寄附対象6事業

名寄市

ジュニアスポーツエコシステム

市の豊かな自然環境を活用して
子供の可能性を拓き、
産業・経済が好循環する街を実現

東川町

映画「カムイのうた」発信

映画を通じてアイヌの文化・歴史を
グローバルに発信し、
多様性に富んだ世界を目指す

奥尻町

離島留学

地域独自の教育プログラムを構築し、
関係人口の創出、地域の活性化、
持続可能な街づくりを目指す

下川町

循環型森林づくり

木材の高付加価値化、自主財源の確保、
林業従事者の確保育成等により
循環型の林業を構築

上川町

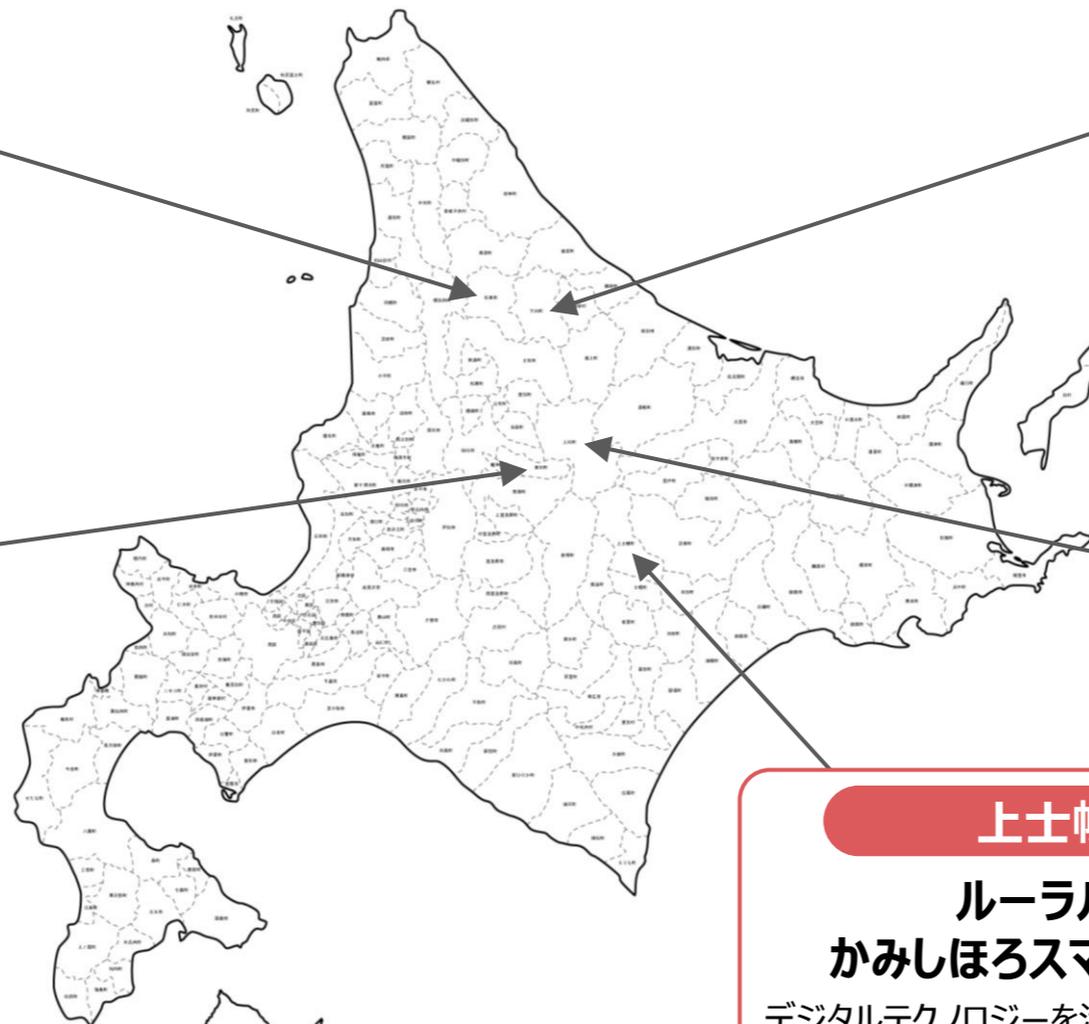
未来の上川人育成

将来の町の担い手となる
次世代の人材育成、
住民や子供のウェルビーイングの実現

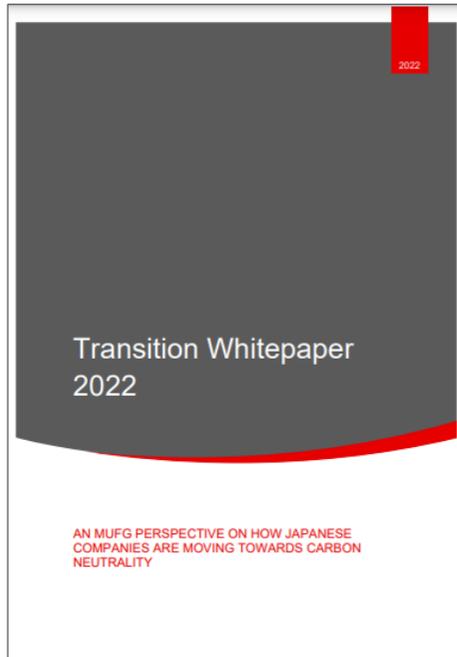
上士幌町

ルーラルOS かみしほろスマートPASS

デジタルテクノロジーを活用したオンデマンド
福祉バスやドローンの廃車システムにより
域内物流／交通と収益性を両立



MUFGのトランジション支援：白書の取組み



- 2022年4～7月 : 白書パートナー企業の皆様との対話
- 2022年8月 : MUFGフォーラム
- 2022年8～9月 : 欧米行政当局との対話
- 2022年10月 : MUFGトランジション白書1.0発刊
- 2022年11月 : COP27発信

白書1.0のKey Takeaway

1 地域特性

- 地域でカーボンニュートラル（CN）のスタートポイント、方向性が異なる
- ①排出源、②接続性、③安全保障、④社会政治要因

2 産業連関（Interdependency）

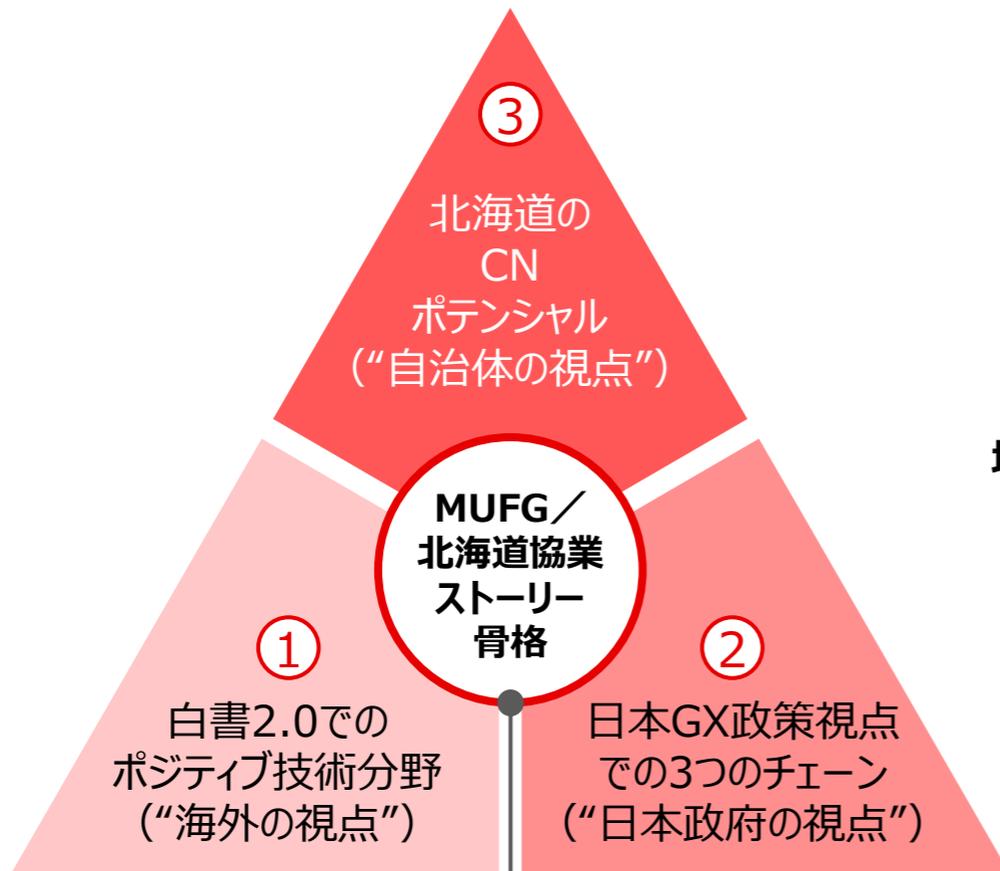
- 個別セクター切り出しではなく、産業の縦横の連関性を考慮して有効なCNレバーを確認
- 日本では「電気と熱」のCNが重要レバー

3 日本版Managed Phase Out

- Managed Phase Outの方向性は、日本と欧米はアプローチが相違
- 例：欧州は早期退役、日本は混焼から専焼へ

カーボンニュートラル(CN)の実装の場としての北海道

MUFG／北海道CN協業における「3つの視点の交点」

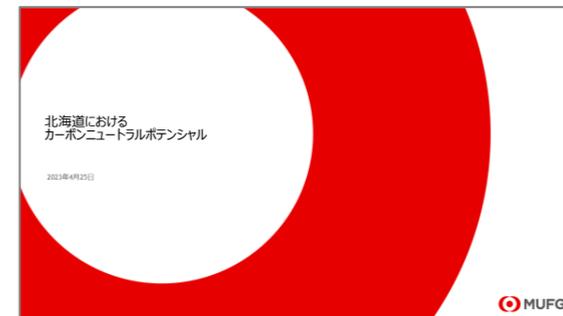


地域のCNと経済活性を
両立する
モデルケースへ

北海道のCNは、自治体／海外／日本政府の
3つの交点のストーリーが描けるため、
「地域CN」の一環として、MUFGにより支援を推進

北海道CNレポート発行

北海道への投資予見性を高めるため、
北海道のCNのポテンシャルを国内外へ発信



包括連携協定にGX項目を追加

「ゼロカーボン北海道やGXの促進」の項目追加、
CN技術実装を推進する基金へ5億円寄付実施



北海道でのCNの実装支援の意義

北海道内のCNによる地域経済圏の構築

再エネ、森林／農業等豊富な資源活用
⇒ 道内サステナビリティ事業に紐づいた仕組み作り

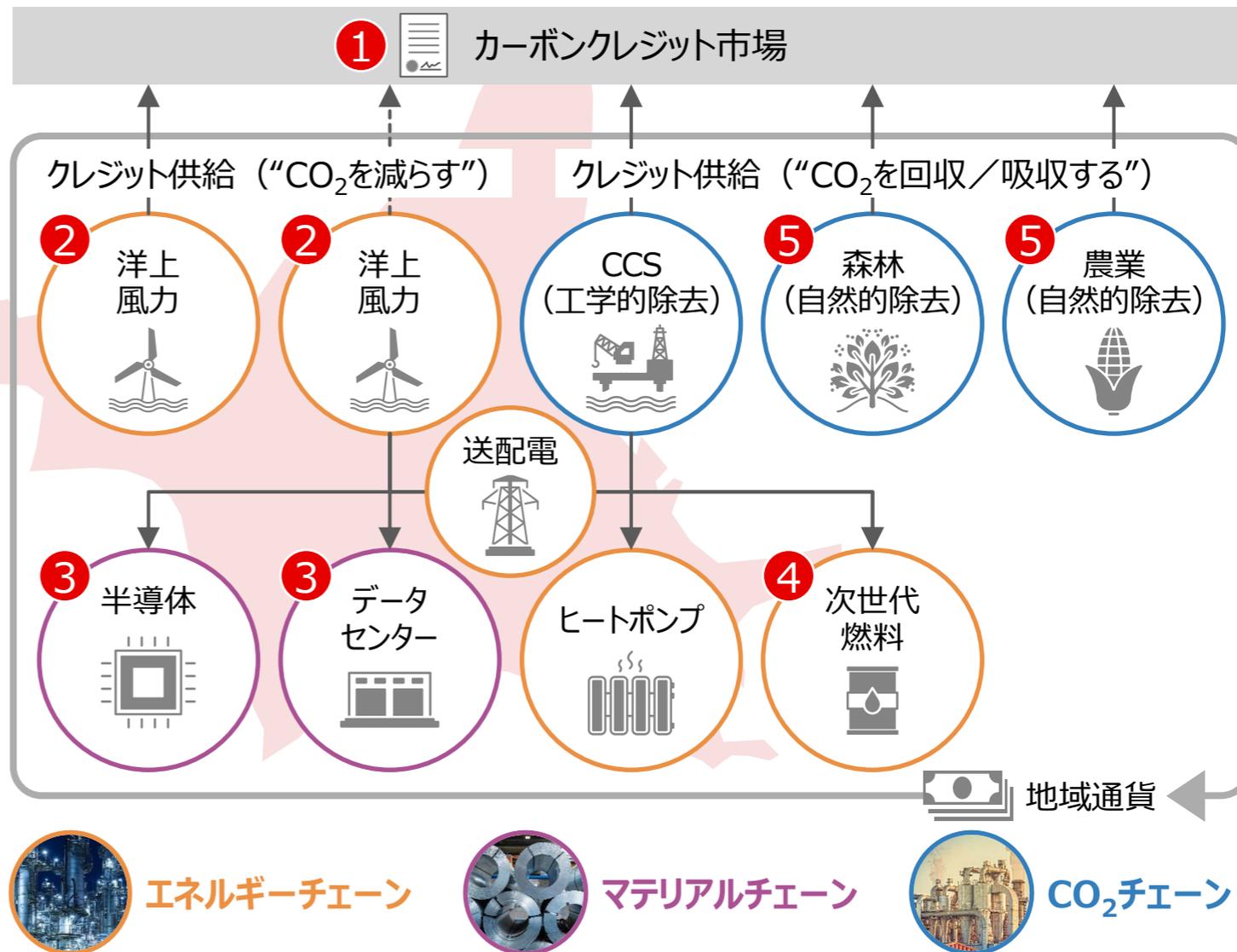
道外へ供給する価値

- ① カーボンクレジット
- ② 再エネ（地域間連系線）
- ③ デジタル関連財・サービス
- ④ 次世代燃料
- ⑤ 木材・農作物

道外へサステナビリティ財供給によるGDP拡大

道内事業で創出されたサステナビリティ財を
道外へ供給拡大

※ カーボンクレジット、洋上風力由来電力、グリーン半導体／データセンター、次世代燃料、木材／農作物 等



北海道でのCNを推進することで「道内地域経済圏の構築」と
「道外へのサステナビリティ財供給によるGDP拡大」の両輪を形成
⇒GXのモデルケースへ

世界が進むチカラになる。

変化の速い時代、全てのステークホルダーが課題を乗り越え、
持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。
その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。

これが未来に向けて変わらない
MUFGの存在意義です。